

育てる楽しみ・食べる喜び

初音丘幼稚園
3～5歳児(309人)
寺島先生

活動のねらい

- ・幼稚園の畑で育てるりりこ。日々成長を追うことを通じて、スーパーなどで売っているトマトをもっと身近に感じてもらいたい。
- ・自分で育てた野菜の味は特別！という体験をしてもらいたい。



活動の概要と流れ

ここ2年間、上手に育てられなかつたりりこ。昨年は収穫も少なく、「今年がんばるぞ！」と誓い、苗を待ちました。幼稚園の遊び場の一部を畑にして土を耕し畝を作り、届いた苗を植えました。例年のようにプランターにも植えて、苗の様子を比較。畑のりりこは順調に育ち、青々とした力強い葉っぱがしげっています。葉がくるくる巻いて上手に育たない年が続いたので今年の収穫はかなり期待できそうです。一方、プランターのりりこは葉も弱々しいので、来年からは地植えにしよう決めました。収穫量は予想をはるかに上回り、大きくてしっかりしたトマトが毎日冷凍庫に増えていきます。

幼稚園で行っている「ゲリラクッキング」。事前の準備が大変でしたが、目をきらきらさせ、わくわくしながら開店を待っている子どもたちを見ると、大満足でした。トマトが嫌いな子が、「これなら食べられる！」「おいしい！」とってくれたことにも、ガッツポーズが出ました。

5月

- ・希望者に配布。ご自宅でも栽培してもらおう。
- ・毎年プランターで植えていたが、この2年間は葉っぱがくるくと巻いてしまい弱々しく収量も不作続きだったため、今年は幼稚園の畑に植えた。
- ・比較のため例年通りプランターにも植えた。
- ・畑の苗はすすくと育ち、黄色い花が咲いた。
- ・支柱を立て、苗をひもで結び付けた。



6月

- ・地植えにしたのが良かったのか、茎が太く青々とした葉が広がり、トマトの実が付き始めた。
- ・隣の畑では、にんじんやなす、さといもを育てている。



7月

- ・畑のりりこが赤くなった。大きくて形のよいものを収穫した。
- ・毎日たくさんのトマトが収穫できたが、中には尻ぐされや穴あき、まだらになっているトマトもあった。水分不足やカメムシなど原因はいくつか考えられるので、今後は病気のこと調べていく。
- ・収穫したトマトは冷凍庫で保管し、2学期に調理をする。



9月

- ・たくさんのトマトが収穫できた。
- ・「ゲリラクッキング」と称して、畑で収穫した野菜やいただいた野菜を職員が調理し、子どもたちに食べてもらっている。
- ・今回は、それぞれ30個のトマトを使って、ミートソースとライスコロッケを作った。ミートソースには園で育てた他の野菜も使用した。
- ・トマトが苦手な子も友達につられてチャレンジしていた。



調理(実習)メニュー

ライスコロッケ・ミートパスタ

実施内容のポイント

- ①園での栽培(畑とプランターの比較)
- ②ご家庭での栽培(希望者):ご家庭での調理・レポート作成・ご兄弟の自由研究
- ③ゲリラクッキング:りりこや畑で採れた他の野菜を使って調理



取り組みの工夫と実践の成果

廊下に広がるおいしそうな香りと子どもたちの歓声。本園では、予告なしに始まる「ゲリラクッキング」が、子どもたちの楽しみとなっています。今回のメニューは、りりこを使ったライスコロッケとミートパスタです。「いいにおーい!」「まだー?」と楽しみに待つ子どもたち。野菜が苦手な子どもも、友達につられて「食べてみる!」とにこにこ顔。サプライズ形式の体験と、みんなで育てる・みんなで食べるという特別な体験が、苦手な野菜を口にする最強のスパイスとなり、子どもたちの心に食への前向きな気持ちをしっかりと育てているのだと思います。

自分だけでなく子どもを巻き込み一緒に楽しむことに喜びを感じ、保護者を巻き込み親子での食育を経験してほしいと願いつつ、よりみんなを笑顔にする調理を考えることが毎年の楽しみとなっています。トマトのレシピを考えたり、害虫について調べたり、トマトはいつも自分の頭の中に住み着いています。今も来年の「ゲリラクッキング」の構想を練っているところです。もっと上手に育てたい、もっとおいしいものを作りたい、もっとみんなを巻き込みたいと意欲満々です。

ご家庭で栽培した子どもたちのレポート



感じたこと

「育てる」という言葉は、教育現場では日常的に使われる言葉ですが育てているつもりが、自分が「育てられている」ことに気が付くことがしばしばあります。りりこに関わるようになって8年目。いろいろな経験を通して育てていただきました。子どもたちの「やってみたい!」という好奇心と「みんなで一緒に!」という共感パワーは最強ですね。難しい理屈ではなく、愛着と楽しさが、一番の食育になるのだと改めて確信しました。これからも、子どもたちと一緒に、たくさんの「気づき」と「感動」をもらいながら、楽しく食育を続けていきたいと思えます!

受賞理由

過去の不作を糧に、畑とプランターでの比較栽培を通じて生育の違いを学ぶ探究的な姿勢がすばらしいです。予告なしに始まる「ゲリラクッキング」は、サプライズ演出で子どもたちの好奇心を刺激し、苦手な野菜の克服につながったことと思います。また、家庭への苗配布や親子での食育レポート作成など、園と家庭が連携した独自の取り組みも光っています。